

川崎病確実例と不全型の定義

2019年5月～

主要症状の数	冠動脈病変(+)	冠動脈病変(-)
6	確実例 (a)	確実例 (a)
5	確実例 (a)	確実例 (a)
4	確実例 (b)	不全型 (d)
3	不全型 (c)	不全型 (d)

- 6つの主要症状のうち、経過中に5症状以上を呈する場合は、川崎病と診断する。
- 4主要症状しか認められなくても、他の疾患が否定され、経過中に断層心エコー法で冠動脈病変(内径のZスコア+2.5以上、または実測値で5歳未満3.0mm以上、5歳以上4.0mm以上)を呈する場合は、川崎病と診断する。
- 3主要症状しか認められなくても、他の疾患が否定され、冠動脈病変を呈する場合は、不全型川崎病と診断する。
- 主要症状が3または4症状で冠動脈病変を呈さないが、他の疾患が否定され、参考条項から川崎病がもっとも考えられる場合は、不全型川崎病と診断する。
- 2主要症状以下の場合には、特に十分な鑑別診断を行ったうえで、不全型川崎病の可能性を検討する。